

THE 8<sup>th</sup>

# MEDIA UNIVERSAL DESIGN COMPETITION

2015年 2月

日	月	火	水	木	金	土	日
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11 建国記念の日	12	13	14 バレンタインデー	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28		

色弱の人に聞いてみよう

赤と緑が一緒に使っていると区別が付きにくい…

第2色覚障がいの方の見え方 → 赤と緑が茶色っぽく見えます。

2015年 2月

日	月	火	水	木	金	土	日
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11 建国記念の日	12	13	14 バレンタインデー	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28		

赤と緑を見分けるのが難しい人もいます。赤と緑を一緒に使うのは控えよう。

## 第8回 メディア・ユニバーサルデザインコンペティション 受賞作品集



## まえがき

全日本印刷工業組合連合会 教育・研修委員会では、2014年12月に開催いたしました「第8回メディア・ユニバーサルデザイン（MUD）コンペティション」におきまして高い評価を得た作品を、受賞作品集として冊子にまとめました。

今回は全国から242点（一般部門：91点、学生部門：151点）と多数の作品の応募をいただきました。これらの作品については審査会で厳正なる審査が行なわれ、全20点の受賞作品が決定いたしました。

それぞれの受賞作品には審査委員長・伊藤啓氏による講評を掲載していますので、メディア・ユニバーサルデザインについてさらに深くご理解いただくためのツールとして活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本コンペティションの趣旨にご賛同いただきご後援・ご協力を頂戴しました官公庁・企業・団体の皆様、および作品のご応募を頂戴しました皆様、審査会にご参加いただきました審査委員の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

全日本印刷工業組合連合会  
会 長 島村 博之  
教 育 ・ 研 修 委 員 会  
委員長 土屋 勝則

## 第8回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション 講評

審査委員長 東京大学分子細胞生物学研究所 脳神経回路研究分野  
准教授 伊藤 啓

メディア・ユニバーサルデザインコンペティションも8回目を迎え、多数の応募作品が集まった。さまざまな印刷物やパッケージをさまざまな利用者に配慮して分かりやすく制作するというメディア・ユニバーサルデザインの基軸の部分では、細かな配慮がなされた良質な作品が非常に多かった。コンペティションという性格上、単に完成度の高い作品よりも、新しい視点を切り拓くような作品の方が賞に至りやすい傾向があるため、こうした作品にすべて賞を出すことができないのは心苦しい面がある。全体のレベルが毎回着実に向上していることは、非常に嬉しく感じている。

ここ数年のトレンドとなっている防災関連や外国人への情報提供関連では意欲的な作品が多く、優秀賞の多くがこの分野であった。内容も、初期のような観念的なものから、目的を明確に見据えたリアルなものへと変化し、実用性が増している。東日本大震災後に重要視されるようになった「災害に強い社会づくり」、また2020年のオリンピック／パラリンピックを見据えた「外国人に優しい社会づくり」に向けて、メディア・ユニバーサルデザインが果たせる役割は大きい。今後もぜひ、こうした分野の意欲的な作品を期待したい。

学生の部の経済産業大臣賞受賞作品のように、外から分かりにくいアレルギーや病気などを持つ人が、自分が配慮の必要な人間であることを周囲にさりげなくアピールできるような仕組みを提案すること、またそういう仕組みの存在を社会に啓発することも、メディア・ユニバーサルデザインが社会に果たせる重要な分野である。啓発活動というのは、もともと関心がある人にはメッセージが届きやすいが、もともと無関心な人には啓発活動の存在にすらなかなか気づいてもらえないというジレンマがある。一般の部の経済産業大臣賞受賞作品のように、難しい細やかな配慮の技術を関心が薄い人にも分かりやすく伝える手法の提案は、この意味で非常に意義がある。

学生の部では、今回初めて高校生の作品が受賞した。メディア・ユニバーサルデザイン教育検定試験を中学生が受験しているというニュースもある。メディア・ユニバーサルデザインの概念が若年の人にも広がりを見せているのはとても心強い。ただ一方で、昨年から続く傾向であるが、学生ならではの、実験的で「弾けた」内容の提案が全体としてあまり多くなく、小粒になっていたのは残念だ。もっとガンガン行ってほしいと思う。一般の部も、従来の枠を越えた新しいものの応募があまり多くなく、新しい手法を提案する作品でもコストや実現性の詰めが甘いものがあった。学生の場合はアイデアだけの一発勝負で良いが、一般の場合は、やはりプロとしての作品の完成度にも期待したい。

メディア・ユニバーサルデザインコンペティションでは、さまざまな分野の作品を幅広く集め、その中から分野にとらわれずに良いものを選ぶという観点から、募集時に分野やテーマを特に設定してこなかった。これはバラエティに富んだ作品を集められるというメリットがある一方で、応募者にとっては、どのような作品を出したらいいのかイメージしにくいというデメリットもある。分野別の募集やテーマ設定をどうするかは、今後検討していきたい。

# 見えにくいカレンダー

株式会社マルワ 瀧藤 伸太郎 (愛知県)



## 工夫点

このカレンダーは、中京大学 総合政策学部 坂田隆文ゼミの学生と協働で制作したメディア・ユニバーサルデザイン啓発ツールです。日々

## 審査委員長講評

カレンダーは、多くの人が毎日使う不可欠な日用アイテムであり、土日祝日などを色で表す習慣が定着しているため、メディア・ユニバーサルデザインの重要な課題として毎年多数の応募がある。これまでの応募作のほとんどは、工夫をこらして作り上げたひとつのデザインを、各月のカレンダーに適用したものだ。この作品は、1月のカレンダーはあえて「よく見かけるが、実は見えにくい」デザインで作成し、12ヶ月

の生活の中で自然に目に入り、多くの人を使うものということでカレンダーにしました。見えにくいカレンダーが毎月少しずつ見やすくなっていき、12月には誰もが使いやすいカレンダーになるというストーリーで、見開き上半分

かけて試行錯誤しながら見やすいものに改善していき、完成した「分かりやすい」デザインのカレンダーを、12月で掲示している。誰にでも分かりやすいデザインを作るには、さまざまな観点から細かな工夫をする必要があるが、それらの工夫を一度に全部盛り込んだのでは、どこにどのような工夫が施されているのかを意識しにくい。この作品では、こうした工夫を毎月ひとつずつ導入してゆき、見えにくい人のシミュレーション画面と対比することで、「分かりやすいデザインを作るまでの過程」を明解に説明してい

はシミュレーション、下半分は改善したものになっています。前半はかなり見えにくいカレンダーになっていますが、一般の方にも「見えにくい」を体験してもらうことを目的に制作しています。

る。どの月のカレンダーもある程度の実用性は確保しているため、教育用の特殊用途だけでなく、一般用のカレンダーとして普通に利用しても支障はない。啓発アイテムとして非常によく考えられたものだといえる。また本作品は、中京大学のゼミの学生と協働で制作したという点にも特色がある。学生の問題意識と改善の工夫を企業が製品として世に出すことにより、大学にとっては高い教育効果、企業にとっては社会へのより良いデザインの提供というメリットを達成でき、素晴らしい形の産学連携である。

このカレンダーは、ぼくがたくさんの人の意見を月ごとに聞き、その意見を取り入れて、めくっていくごとに問題を解決していくカレンダーです。翌月は別のの人に見せて、さらに意見を聞いてMUD（メディア・ユニバーサルデザイン）に配慮したカレンダーを作っていく物語です。

このカレンダーは…

- 上のカレンダー 「見えにくい」を体験できるカレンダー（見え方で困っている人や違和感のある人）※シミュレーションです。
- 下のカレンダー 「見えにくい」を解決していくカレンダー（MUD(メディア・ユニバーサルデザイン)の考え方を取り入れる）

2015年 9月 September

おばあちゃんこのカレンダー見やすい？

全体的に薄く、ぼやけて見えるの…。白内障の方の見え方 → 視界に霧がかかったように見えます。

2015年 9月 September

月 mon	火 tue	水 wed	木 thu	金 fri	土 sat	日 sun
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

ぼやけて見にくい薄い色は使わない。

みなさん、たくさんの意見を聞かせていただきありがとうございました。ぼくが分かったことをお伝えします。

見やすく、分かりやすくするための工夫

- ①文字の大きさ、フォントを工夫しよう
- ②色使いに注意しよう
- ③ピクトグラム(イラストやマーク)を入れよう
- ④誰もが見やすいかを見直してみよう

MUD(メディア・ユニバーサルデザイン)5原則

- アクセシビリティ(接近容易性)
- ユーザビリティ(使いやすさ)
- リテラシー(読めて理解できる)
- デザイン(情緒に訴える)
- サステナビリティ(持続性があること)

2015年 12月 December

月 mon	火 tue	水 wed	木 thu	金 fri	土 sat	日 sun
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

MUDを考慮したカレンダーの完成!

「みんなが見やすい」を意識して、人にやさしい情報にしよう!!



工夫点

食物アレルギーを持つ子どもたちが安心して外で(給食を含む)食事が出来るように考えたものです。自分から何のアレルギーを持っているかを提示することにより、周囲の

大人や先生、また自分自身も注意することで、誤ってその食べ物を口にしてしまうなどのリスクを減らします。万が一、症状が出てしまった際の対処法なども分かるようになっています。給食用の「今日のアレルギーボード」では、先生も児童も一緒に確認できます。これにはアレルギー

を持つ子どもたちへの理解を深めるという目的もあります。また、色弱の方にも見やすい明度差のある配色にしたり、ひらがなや英語で表記したり、子どもにも親しみやすく分かりやすいピクトグラムを使用するなどの工夫もしています。

審査委員長講評

食物アレルギーは時として重篤な結果を引き起こすことがあり、誤摂取による事故が後を絶たない。特に若年の児童生徒は、自分のアレルギー症状を十分に把握し、どのメニューにどういう食材が入っているかを推理して自己対処することがまだ難しいために、事故が起こりやすく、保護者には不安が付きにくい。本作品は、①児童生徒自身が自分のアレルギー状況をよく理解し、②給食等の食事提供者が適切なアレルギー情報を提供する、という2つの目的を果たすために工夫されている。ア

レルギーを起こしやすい食品をカードにし、その中で自分がアレルギーを起こす食品のカードを子どもに携帯させることで、自分が気をつけるべき食品を子どもに把握させる。給食の際に、アレルギー症状を起こしうるメニューを探してマグネットボードに貼ることで、どのメニューが事故を起こしうるかを子どもと教師の両方が理解する。さらに症状の種類と緊急時の対応法を記したカードによって、適切な処置を啓発する。カードは漢字、ひらがな、英語表記によって、子どもや外国人にも理解しやすくしている。

学校等でのアレルギーの対応では、緊急時の抗アレルギー注射薬(エピ

ペン)を本人や保護者でなく教員や保育士が注射してよいかどうかの議論が続くなど、まだ適切な対応法が定まっていない。本作品のような啓発グッズが普及することにより、よりよい対応法の議論が進むことが期待される。

本作品の作者の篠原氏は、昨年に引き続いての本コンペティションでの受賞である。当事者の立場を最優先に考えた目線で、本人の便利さと周囲への啓発普及の両方の効果を考えたデザインをまとめ上げる力は、非常に素晴らしい。今後ぜひ活躍してほしい。



**『My Allergy』とは**

食物アレルギーを持つ子どもたちが安心して外(学校の給食も含む)で食事が出来るように考えたものです。自分から、何のアレルギーを持っているかを前もって提示する事により、間違っその食品を食べてしまうなどのリスクを減らすものです。

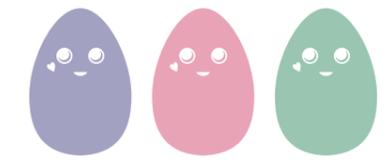
子どもたちが自分で持つカードと、小学校の給食のためのボードとマグネットがセットになっています。

**目的**

- 「アレルギーの元になっている食物を誤って、または知らずに食べさせてしまう」ことを防ぐ
- 食物アレルギーを持つ子どもの保護者も安心して子どもを外食(給食など)させられるようにする
- 食物アレルギーを持つ子どもたちへの周囲の理解を深める
- 幼いうちからアレルギーに対する理解を深めておく事でアレルギーを持つ子どもたちに、より快適な環境をつくる
- 給食での食物アレルギーに関するトラブルを減らす

**対象者**

- 食物アレルギーを持つ子ども
- 給食のある小学校
- 幼稚園、保育所など



**使い方**

- 「アレルギーのもとになる食物カード」を使います。(紺色のカード)
- 「症状カード」を使います。(濃いピンクのカード)
- 「対処法カード」を使います。(みどりのカード)
- 「緊急時の連絡用カード」を使います。(赤色のカード)
- 最後にすべてのカードをまとめ、学校に行く際や、保護者がいない場所で食事をする際に子どもに持たせてください。

自分(またはお子さん)のアレルギーのもとになる食物のカードを選んでください。

もし①で選んだ食物を誤って食べてしまった場合どのような症状が出るのか、カードにチェックを入れてください。

上の空欄には緊急時、すぐに連絡がとれる番号を記入してください。下の空欄には、かかりつけ医とその病院の電話番号を記入してください。

最後にすべてのカードをまとめ、学校に行く際や、保護者がいない場所で食事をする際に子どもに持たせてください。

**カードの特徴**

- 色弱の方にも配慮した、明度差のある配色にしました。
- 子どもにも分かりやすいひらがな、外国人の方の事も考え、英語でも表記しています。
- 幼い子どもたちにも分かりやすく、また楽しくなるようなキャラクターのようなピクトグラムを作りました。

**「今日のアレルギー」ボードについて**

給食の献立を見て、アレルギーの元になる食品があればそのマグネットを「今日のアレルギー」ボードに貼ります。これで、児童も先生も一緒に確認できるので安心して食事が出来ます。

ただしマグネットを貼る作業は、食物アレルギーに対する理解を深めてもらうため、子どもたちが行います。ボードのマグネットと同じカードを持つ児童がいる場合、先生は、特にその児童を注意してみる事が出来るので食物アレルギーによるトラブルを防ぐことが出来ます。

★給食の際は、まとめた「アレルギーカード」を机の上などに出しておきます。

# 優秀賞

一般の部

## 「被災地がつくった防災+手帳」の展開

株式会社日進堂印刷所 佐久間 信幸 (福島県)



### 工夫点

東日本大震災を経験したからこそ得られた知識やノウハウ（高齢者、障がい者、子ども連れ、ペット連れ、外国人などの様々な立場の方が、ス

ムーズに避難できる知恵など）を盛り込んだ手帳です。そのノウハウをできるだけ多くの方へ伝えるために、本手帳の防災コンテンツを活用して、他の企業様、団体様などで防災ツールを作成するなど、活用の広がりを見せています。

### 審査委員長講評

2011年の地震で莫大な被害を被った福島県にある企業が、実際の体験から有用な防災情報をまとめた一連のグッズである。手帳では、毎日の項に防災ノウハウをひとつずつ掲示し、1年を通じて全365個の具体的な防災知識に自然に触れられるようになっている。また複写紙の技術を利用して、ペンがなくても指

先や硬いものさえあれば文字が書ける用紙を用意し、緊急時のコミュニケーションを図っている。防災情報をまとめたページでは、高齢者、障がい者、子ども連れ、ペット連れ、外国人などさまざまな立場に配慮して、実際の震災被害を踏まえた知恵を盛り込んだ情報を、分かりやすく提供している。

特筆されるのは、原子力発電所災害への対応に大きなページを割いていることである。原発の安全性には

### 特徴

- 1日1つ防災情報を掲載
- 表紙カバー裏面に緊急時に役立つ情報を掲載
- 手帳の裏表紙に耳マークを掲載
- ペンがなくても書ける複写式メモ など

さまざまな議論があるが、ひとたび事故が起これば半径数十キロに甚大な影響を及ぼすという点で、たとえ事故や火災が起きても敷地付近の局所的な影響に留まる一般の発電所や工場に比べ、原発は全く異なる性格を持つ。今後は、原発を台風、地震、火山など同列の災害発生源として位置づけ、万一の際の防災知識をしっかりと啓発することが、原発事故を経験した我が国の責務だと言えよう。

# 優秀賞

一般の部

## 来日最初のおもてなし 日本式トイレのお作法ポスター

杉山メディアサポート株式会社 鈴木 早苗 (静岡県)



### 工夫点

これからの日本で、どんな人がどんな事で困り、情報を必要とするのか考えた時、オリンピックも控え、著しく増加中の来日外国人の方々から不便を感じる事が多いのではないかと考えました。

### 審査委員長講評

トイレは誰もが必ず使うものであるが、国によって違いが非常に大きく、他の国に旅行するとトイレの使い方に戸惑うことが少なくない。日本古来の和式便座だけでなく、最近普及している温水便座も、日本を訪問する外国人にとっては使い方が分からず、バリアになりうる。個室の

そして、興味の対象であるとともに難しく失敗しやすい、しかし避けては通れない独自の進化をした日本のハイテクトイレや文化を分かりやすく紹介できないかと思い、わかりやすいピクトグラムと5カ国の言葉で紹介するポスターを制作しました。また、限られた紙面では簡単な説明しか出来ない為、より詳細を知り

たい方の為にQRコードより動画に誘導するという形をとりました。また、ピクトグラムをちょんまげ頭にする、背景に和紙素材を使用するなど、ステレオタイプの日本像でまずは外国人の方に興味を持っていただく仕掛けもしております。

ドアをノックすると中からノックし返すといった習慣も、実は日本独自のものである。本作品は、トイレの使い方を日・英・中・韓・ポルトガルの各国語で説明したポスターである。絵と文字で示すだけでなく、QRコードでウェブサイトに誘導し、動画を提供することで、さらに詳しい情報を提供している。トイレの利用法のような人に尋ねにくいマナーは、このようなポスター形式の情報

提供で啓発すると効果的であろう。今後の課題としては、QRコード自体が日本独自のサービスであり、外国人が持参するスマホ等ではすぐには使えない点だ。今後QRコードによる情報提供が増えることが予想されるので、QRコードの利用法自体を日本入国者に分かりやすく啓発する努力も欠かせない。

# パラリンピックと障がい者のスポーツ

株式会社一心社 制作部 (大阪府)



## 工夫点

2020年東京オリンピックでも開催されるパラリンピックを視野に、パラリンピックとはどのようなものか、歴史・ルールそして沢山来日さ

## 審査委員長講評

2020年の東京オリンピック/パラリンピック(関係者の間では「オリパラ」と称されている)に向けてさまざまなレベルでの活動が進んでいるが、この作品はパラリンピックの啓発パンフレットである。見分けやすい色づかいと読みやすい書体や文字間隔により、パンフレット自体を見やすく作成しているとともに、本文は日本語のみであるがQRコードによって多言語版のアクセスを可

れるであろう身体障がい者の方への声かけ、介助の仕方などが分かるパンフレットを作成しました。

特徴

- 色覚障がい者の方でもカラフルで見分けやすい配色に見えるよう工夫しました。

能にしている。

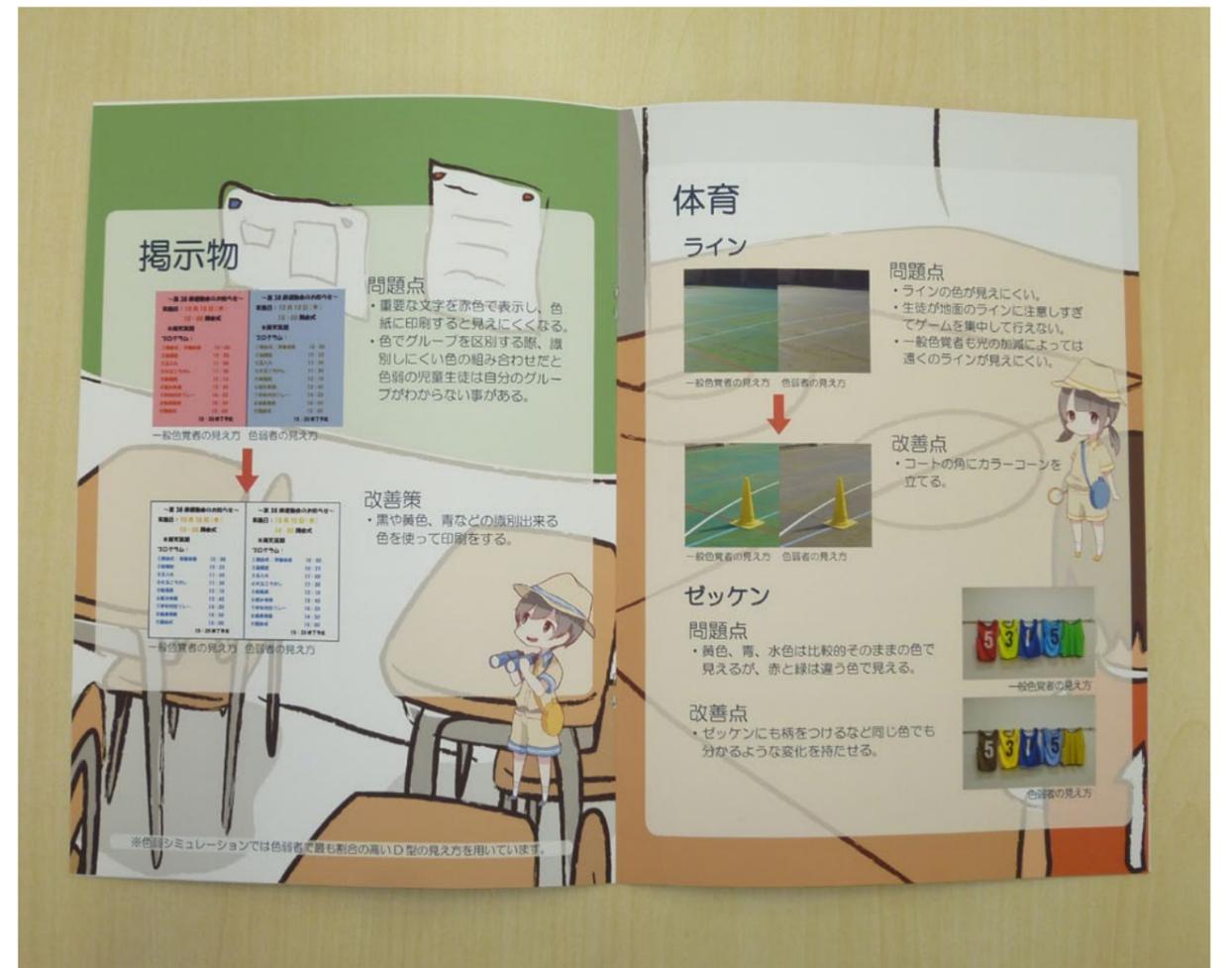
本作品が特に優れているのは、目が見えない人、耳が聞こえない人、車椅子の人などに対して、「具体的にどのような手助けをすればいいのか?」を詳しく、分かりやすく説明している点である。日本は「おもてなしの国」というイメージが定着しているが、それは実態としては、サービス従事者の勤務マナーが良いというのに過ぎない。一般の人が見知らぬ人にどれだけ親切に手助けしているかという点では、日本は主要国の中で最低レベルである。しかしこ

- QRコードにアクセスすることによって多言語表記されたPDFをスマートフォンなどで閲覧できます。
- フォントはすべてUDフォントを使用し、見やすい行間・級数で制作しました。

れは、個々の日本人が非人情だというわけでは必ずしもなく、「介助してみたいとは思っても、具体的にどうしたらいいのか知らないの、手を差し出しにくい」という面がある。喫煙マナーや携帯マナーが短期間のうちに急速に定着したように、具体的な啓発普及を行えば、今の状況は十分改善しうる。目が見えない人をどうやって手引きするか、方向をどうやって伝えるか、車椅子はどのように押すかなどの情報を分かりやすく図で示した本作品のような啓発資料は、そのために非常に有効であろう。

# 知ってほしい色弱のこと~学校でのカラーユニバーサルデザイン~

東京都立工芸高校 伊藤 徳敏、木村 眞子、重岡 あすか、  
富安 柚衣、中沢 利樹、松川 菜々 (東京都)



## 工夫点

本文は文章ではなく、箇条書きにして要点を簡潔につかめて読みやすいようにした。

健康者と色弱者の見え方を比較したシミュレーション写真を入れるこ

とで、より色弱者の目線に立って理解できるようにした。

イラストや明るい色を多用することで、色弱に対して持ちがちな暗い印象を払拭できるようにした。

## 審査委員長講評

色弱の児童生徒に対して学校に必要な配慮を、啓発パンフレットの形にまとめた作品である。黒板、掲示物、運動場のライン、ゼッケン、理科の実験や家庭科の実習など、学校

ならではの問題点を、学生自身の視点から提起し、シミュレーション画像によって検討すべき課題を説明し、対応法を提案している。背景や挿し絵も工夫して、親しみやすいものに仕上げている。グラフィックデザインは、高校生のもとは思えない完成度の高さだといえる。学生自身が

こうした課題を考えることは教育としても有用であるだけでなく、形のあるものにまとめ上げることによって啓発の資料としても価値がある。こうした取り組みをぜひ各方面で進めていただきたい。

# 優秀賞

学生の部

# 備中no町家deクラス広報リーフレット

岡山県立大学 宇恵 明日美、塚本 光世、伊藤 千恵、  
鍛冶 奈央香、三浦 麻結 (岡山県)

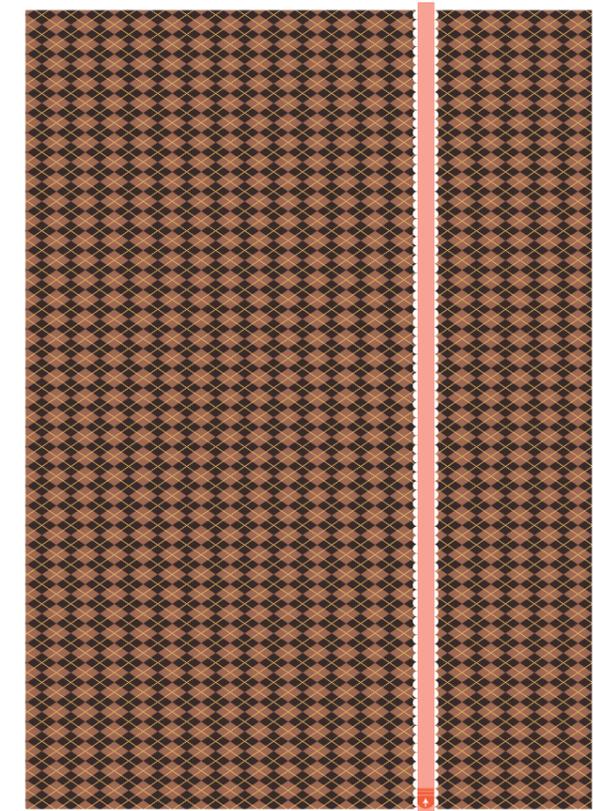
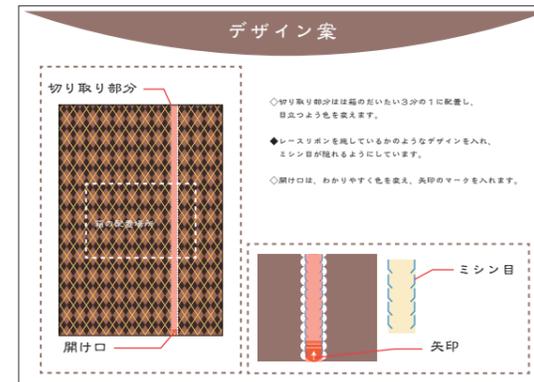
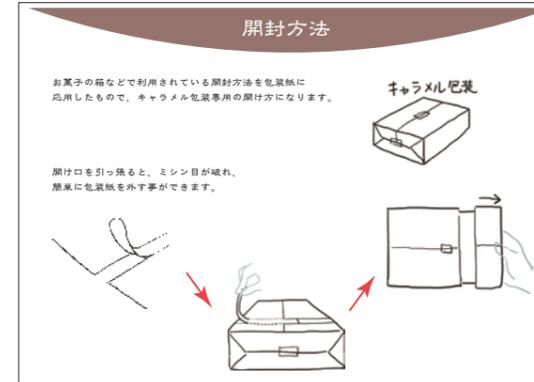


# 優秀賞

学生の部

# 簡単に美しく開けられる包装紙

大阪市立デザイン教育研究所 稲田 美咲 (大阪府)



## 工夫点

町家の暮らしを体験するプログラムを紹介するリーフレットのデザイン。この種類の広報は情報量が多くなる

## 審査委員長講評

倉敷の美観地区の町屋で行われた十日間の暮らし体験イベントのリーフレットで、地図、全体スケジュール、個々の町屋でのイベント説明を分かりやすく説明している。高齢者の来場が多いことに配慮して、文字

ので、なるべくわかりやすく伝わるように情報を整理した。またターゲットは主に中高年であることから、フォントも見分けやすいものを使用し、ほとんどの部分を9point以上のサイズとした。配色も日本の伝統

の大きさや配置をよく工夫している。伝統色を基調にした落ち着いた構成にもかかわらず、配色やデザインを上手に調整して、どのような色覚の人にも分かりやすいものに仕上がっている。見分けやすさを追求するとコントラストの高い色づかいになって、どぎついものになるという誤解が良くあるが、この作品は、落ち着いた

色を使っているが、画面では色覚シミュレーションソフトで確認し、紙にプリントしたものはバリエーションでもチェックをした。特にスケジュールや地図は、正確に情報が伝わるように何回も改良を重ねた。

色調でも見やすいデザインを作れることを十分に示している。完成度は非常に高く、大学生が作ったものとはとても思えない。観光パンフレット制作に関わるプロのデザイナーは、このレベルのものがいつも作れるようにぜひ努力していただきたい。

## 工夫点

ミシン目の入れ方に苦戦しました。紙が薄いため、ただ切れ目を入れるだけでは途中で破れたり、きれいに切ることができませんでした。しか

## 審査委員長講評

きれいに包まれた包装紙も、開くときは難しい。びりびりに破いてしまうと、汚いだけでなく後の始末も難しい。綺麗に開こうと思っても、どこにテープが貼ってあるか分かりにくく、テープがうまく剥がせないことも多い。プレゼントをもらったときに包みをその場で開けてしま

ミシン目の入れ方に苦戦しました。紙が薄いため、ただ切れ目を入れるだけでは途中で破れたり、きれいに切ることができませんでした。しかも、様々なパッケージを調査、研究し、最終的に納得のいく作品に仕上げられました。

うと、持って帰るときに不便である。この作品は、こういう問題を解決するために包装紙にミシン目を入れ、簡単に開けられるようにしたものである。ミシン目は、スナック菓子などの箱状のケースではよく見られるが、これを包装紙に応用し、包んだときに箱を一周するようにミシン目ができるようにしてある。さらに、包装紙の柄とミシン目の部分の模様を工夫し、ミシン目の切れ込

みが目立たないように工夫している。ミシン目がうまく回るような中身の大きさに制限が出るため、デパート等でさまざまなサイズのを包装するのには向いていないが、大きさが揃っているみやげ物などの箱をあらかじめ包装するには大変向いている。ぜひ製品として実用化して欲しい。

## 佳作

一般の部

### フニフニうちわ

三和総合印刷株式会社 村上 寛樹 (広島県)

**講評** うちわといえば「長い柄の部分を握ってあおぐ」という形が不変のものとして定着しているが、この作品は弾力のある薄い板に指が入る穴を開け、手のひらに引っかけた形であおぐ、柄のないうちわである。握力がなくても使え、手首をほとんど動かさずにあおぐことができるので、疲れずに長時間使うことができ、手にケガやトラブルのある人にもたいへん便利だ。柄がないのでカバン等にも収納しやすく、柄で他人を突いてケガをさせる危険もない。ありふれた身の回りの物の形を根本から見直して新たな使いやすさを提案した、意欲的な作品である。

### 開け口の切り口

精英堂印刷株式会社 小川 広美 (山形県)

**講評** 食品の箱やメール便の袋などの開封部によく付けられている連続したジッパー状の開け口は、開ける方向を間違えるとちぎれてしまううえ、うまく開封しても切り口のバリが鋭角で、手にケガをしやすい。本作品は、切れ目を従来の折れ線状でなく波線状に加工することで、どちらからでも開封でき、切り口もなだらかでケガをしにくく工夫されている。さらにジッパー部や切り口を明確に色分けして印刷することで、どこに開け口があるかを分かりやすく示している。これも、ありふれた身の回りの物の形を見直した新しい使いやすさだといえる。

### スケジュールカレンダー

川口印刷工業株式会社 牧野 沙紀 (岩手県)

**講評** 一般的な壁貼り用の月めくりカレンダーだが、すっきりとしたデザインで非常に見やすく、使いやすい。日付の数字は大きく、青の平日とオレンジの休日の色の対比が非常に大きいので、休日の分布が遠くからでも分かりやすい。前後月の表示やスケジュールの記入欄も、すっきりと見やすくなっている。ありふれた印刷物でも色や書体、配置などをきっちりと設計することで、使いやすさを大きく向上できる例になっている。

### スマートチケット

不二印刷株式会社 室濱 秋成、永井 佑佳、中島 真紀子、山田 晃平 (大阪府)

**講評** 日本の鉄道は正確な運行と優れたサービスで知られているが、乗車券や特急券に関しては、実は他の先進諸国と比べかなり不親切な面がある。券面の情報表示が、とにかく読みにくく、外国語表記もほとんどない。本作品は、発／着駅や出発／到着時刻を分かりやすく表示するだけでなく、①乗り場表記の印刷、②車両の座席図を入れた指定席位置の案内、③QRコードによるスマートホン用情報サイトへのリンク、という機能を盛り込んだデザイン提案である。情報サイトでは、コンコースからホームまでの経路案内や、出発までの残り時間、遅延情報などを提示する。鉄道事業者は、運行情報を持っていてもそれをユーザーに届ける部分の努力が不十分だ。本提案はそれを補うものであり、飛行機やバスにも応用できるだろう。

### 和の心のおもてなし <お箸で食事をするときのマナー>

大阪シーリング印刷株式会社 秋月 崇志、村中 くみ子、池田 由佳、中村 由衣子、大町 瑞穂、杉原 啓二 (大阪府)

**講評** 箸袋を和紙で作成し、表面には着物のような美しい和風柄の模様を施し、蛇腹式の中を開くと食事マナーや観光名所のひとくち知識が書かれている。説明は日英中の3カ国語が3段に並べられ、英語の部分だけ背景塗りを入れることで、視覚的に多言語を区別しやすくしている。さらに、日本語にはすべての漢字にふりがなを入れることで、かなだけが読める外国人にも配慮している。ふつうの箸袋はそのまま捨てられてしまう消耗品だが、この箸袋はコストがかかる反面、持って帰って記念にしてもらえる効果があり、特に観光地での使用に有効だろう。

### 「静岡市指定家庭用ごみ袋」及び「看板」の改善提案

株式会社共立アイコム 東京営業部デザインG 村松 美名子、鮫島 合、佐野 和美 (静岡県)

**講評** 家庭用ごみ袋も定番の形が定着しているが、本作品は表示と形状の面で細かな工夫を施している。まず、袋本体やパッケージには、入れてよい内容やゴミの出し方について絵と多言語表記で誰にでも分かりやすい説明を入れている。また、①袋の口を手で開けやすくするエンボス加工、②袋の上端を縛りやすくするグリップ加工、③収集作業員が倒れたゴミ袋の上端と下端を持って運びやすくするための、袋下端へのフラップ追加、という工夫により、ゴミを出すだけでなく、集める人の使いやすさと負担軽減も図っている。

※講評は審査委員長によるものです。

## 佳作

学生の部

### 伝統色色鉛筆

芝浦工業大学 青山 紘季 (埼玉県)

**講評** 日本の伝統色で作った12色の色鉛筆の提案。普通の色鉛筆のそれぞれ色を、春夏秋冬を代表する日本の伝統色の色調に置き換えたもので、実用性を維持しつつ和のテイストを醸し出している。パッケージングには非常に細かな工夫が施されている。まず、鉛筆軸はそれぞれの色で塗るだけでなく、その色名にちなんだイラスト模様を白で加え、模様でもひとめで区別できるようにしている。伝統色の色名は日本語とローマ字で、軸の先端部に表示してあるため、軸が短くなるまで使い切っても表示が消えることがない。軸の側面だけでなく先端の断面にも各色のイラストが描かれているので、軸を上から見ても色が分かる。筒状のパッケージには伝統色の解説文も日英2カ国語で入っている。海外みやげに非常に効果的だろう。

### Feeling Cube

芝浦工業大学 廣田 文哉 (千葉県)

**講評** 「ルービックキューブのデザインを分かりやすくする」という提案は毎年のように応募されるが、この作品は「各面の色をすべて同じにして、表面の質感だけを6種類作りわけることにより、目が見える人も見えない人も同じ条件で遊べる」という新しい着想の提案である。目が見えない主人公が強盗に入られるが、停電で暗闇になると形勢逆転して逆に強盗を撃退するという「暗くなるまで待つ」という昔の映画があった。「よく分かるようにする」のではなく「分からないようにする」ことで誰もが同じ立場に立てるようにするのも、ユニバーサルデザインのひとつのやり方である。ぜひ製品化を検討してほしい。

### 利用者にやさしいポストの収集時刻表示

芝浦工業大学 水本 健太郎 (千葉県)

**講評** 郵便ポストには収集時刻が書かれているが、細かい数字の羅列なので情報が読み取りにくい。そこで収集時刻を表でなく、時計状の24時間の丸い枠のイラストの回りに書くことによって、数字だけでなく表示の場所で直感的に分かりやすく示すという提案である。表示サイズは従来の表示と同じなので、既存ポストの表示を簡単に貼り替えられるようになっている。これもすぐに実現できる提案だ。

### シルキー

岡山県立大学 羽田 はるな (岡山県)

**講評** お菓子や化粧品などの箱に使えるパッケージの提案。通常の直方体でなく、折り線を曲線にすることで、角を落として手に馴染みやすい、なだらかな曲面の箱になるようにしている。蓋の部分は箱の表面からわずかに持ち上がって段差がつくようになっており、指をかけて片手で開けやすい。また、開口部の内側にペロを付けることで、蓋を閉めたときに軽いロックがかかるようになっており、視覚や触覚に不自由があっても蓋が閉まったことが分かるようになっている。視覚的にも、蓋と本体の色を違えてあって分かりやすくなっている。

### 駅名で検索

静岡デザイン専門学校 平林 みみこ、石田 涼子 (静岡県)

**講評** 切符を買うときの、「券売機の上の路線図を見て行きたい駅名を見つけ、そこに書かれた料金を記憶し、券売機でその金額のボタンを押して切符を買う」という流れは、日本では当たり前のものとして定着しているが、実はこんな面倒くさくて不親切な仕組みはおかしい。ドイツなどではどこの駅でも、券売機のタッチパネルのキーボードで行きたい駅名の最初の数文字に触れると、駅名候補が表示され、希望の駅を選ぶと金額が表示されて、お金を入れると切符だけでなく、途中の乗り換え経路や時間の案内まで出てくるようになっている。これなら、路線図から駅を探す作業も不要だ。この学生提案は、外国の券売機でなくカラオケの曲名検索から着想されたものだが、期せずしてこれと同じものになっている。どうしてこういうものを鉄道事業者が最初から作れないのか、猛省を即したい。

### 外国人でも安心！お寿司のパネル

静岡デザイン専門学校 西村 美咲都 (静岡県)

**講評** 回転寿司の注文用タッチパネルを多言語・多文化対応する提案。カウンター寿司と違って言葉が通じなくても注文できる回転寿司は、外国人にとって人気のスポットになっているが、現状では外国人対応が十分でない。本提案では、日中韓英印伊仏独の8言語でメニューを選択できる。メニュー分類では握りや単艦だけでなく、最近増えている肉類の寿司の分類も作っている。それぞれのネタのページには加工前の魚や貝、野菜のイラストも入れ、イメージが湧きやすくなっている。箸や醤油、わさびの使い方案内ページもある。飲食店での注文は外国人にとってハードルが高く、英語が通じる高級飲食店にしか行けないために、「日本は外食が高い」という事実と異なるイメージが広がってしまっている。回転寿司、ラーメン、牛丼、定食屋など大衆用の飲食店こそ、多言語メニューの整備が重要だ。

※講評は審査委員長によるものです。

THE 8<sup>th</sup>

MEDIA  
UNIVERSAL  
DESIGN  
COMPETITION

第8回  
メディア・ユニバーサルデザイン  
コンペティション  
受賞作品集



発行：2015年5月25日  
発行者：全日本印刷工業組合連合会／教育・研修委員会  
発行所：全日本印刷工業組合連合会  
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8  
Tel.03-3552-4571 Fax.03-3552-7727  
[URL] <http://www.aj-pia.or.jp/>

※本書内容の無断掲載・転載および不正使用は固くお断りいたします。  
※本書によって発生した問題・トラブルに対してはいかなる場合においても  
一切の責任を負いかねます。



P-00021



GREEN PRINTING JPP

F-B10178  
本社・本社工場